

夢をかけた織りを順次紹介「ゆめ織る EXPO」展

社長 二代甚兵衛 VS 工場長のバトル

アール・ヌーヴォー全盛期のパリ と 近代化真っただ中のセントルイス

Episode2:Expo1900 Paris / Episode3:Expo1904 St. Louis

2024 年 11 月 18 日（月）～ 川島織物文化館



綴織壁掛 原画「武具曝涼」部分（守住勇魚 1896 年）

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：光岡 朗）は、大阪・関西万博の開催を記念し、本社市原事業所内の川島織物文化館で開催中の「ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —」展の第二弾パリ万博編・セントルイス万博編を 11 月 18 日（月）より開催します。

地球規模でさまざまな課題に取り組むべく、世界中からたくさんの人やモノが集まる「万国博覧会（以下 万博）」。川島織物セルコンは明治期より万博へ出品し、その都度、渾身の思いを込めて、織物を制作し発表してきました。

ゆめ織る EXPO 展の第二弾では、パリ万博（1900 年）、セントルイス万博（1904 年）出展時のエピソードを紹介。過去の経験を踏まえ、海外の好みやニーズを意識しつつ、和・洋テイストの 2 作品を出品するものの、販売先の確保に苦労したパリ万博。日本の織物を世界に広めたい二代目社長の川島甚兵衛と、パリでの苦労を繰り返したくない工場長の対

立が勃発したセントルイス万博。織物の魅力と共に、なぜこの作品だったのかを解き明かしていきます。

当展では、川島織物文化館が所蔵する万博関連の資料をもとに、約 1 年半にわたって万博と織物の意外な関係を紹介していきます。1893 年のシカゴ万博のエピソードを紹介した第一弾と共に楽しみください。

ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —

1889 パリ から 2025 大阪・関西

エピソード 2 パリ万博 エピソード 3 セントルイス万博

会 期：2024 年 11 月 18 日（月）～2025 年 12 月 25 日（木）

場 所：川島織物文化館（京都市左京区静海市原町 265）

休 館 日：土・日・祝祭日、夏期、年末年始

川島織物セルコン休業日

入 館 料：無料

※ ご見学は事前予約制です。見学をご希望の方は、あらかじめインターネットでのご予約をお願いします。

■企画概要

「ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —」展では、明治期の万博資料を中心に、万博と織物について紹介します。出展品の制作秘話や苦労話なども交え、当時の記録や文献を通じて紹介していく長期開催の企画展です。

Episode2 : Expo 1900 Paris — パリはいつもおしゃれだった アール・ヌーヴォー全盛期の花の都での経験

1893年のシカゴ万博出品時に、日本と海外では好みやニーズが異なる事を強く感じた二代川島甚兵衛。続く1900年のパリ万博でも、海外で評価を得るために、テイストの異なる2つの作品を出展するという方針は踏襲し、武具の虫干しをする様を描いた日本画をデザインソースに綴織壁掛で表現した“和”の「武具曝涼」、油絵で描かれた洋犬を綴織で織り上げ額装した“洋”の「群犬」を出品。技術や表現は評価され大賞を受賞したものの、アール・ヌーヴォー全盛期のフランスでは、販売先を探すのに、大変な苦労を強いられました。



左：綴織額「群犬」試織 右：パリ万国博覧会（1900）図録

Episode3 : Expo 1904 St. Louis — 二代甚兵衛 VS 工場長 高木 二人の織物愛の行方は？

誰よりも織物を愛し、絶対的な自信を持つ二代川島甚兵衛と、1900年のパリ万博で苦労を強いられた工場長の高木由三郎。セントルイス万博では二人のバトルが勃発します。織物の新しい使い方を考えていた甚兵衛は、空間の出展に挑戦。日本式室内装飾として「若冲の間」「網代の間」の二つの空間を出品します。特に伊藤若冲の世界感でトータルコーディネートされた「若冲の間」は好評を博し、名誉大賞などを受賞しました。一方、パリで西洋の流行を目の当たりにした高木は、当時人気の高かった戦の様子を、流行色の紫を意識して織り上げた綴織壁掛「蒙古襲来」を制作。こちらも好評を博し、海外の博物館へ収蔵されました。ただ、甚兵衛の意に沿わない作品を制作した高木は、社長の逆鱗に触れたとの記録も…。



綴織壁掛「紫陽花双鶏」
(伊藤若冲「動植綵絵」より)



七宝 釘隠し 試作「菊花」（若冲の間）



時絵 室内装飾部材 試作「菊唐草」（若冲の間）

■川島織物文化館 概要

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のごだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192 京都市左京区静市市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

T E L：075-741-4120

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学をご希望の方は、あらかじめインターネットでのご予約をお願いします。

ご利用案内 3

ご見学予約 <https://outlook.office365.com/owa/calendar/Bookings@ksc.kyoto/bookings/s/iYJ4Q8tLSE6DFzWmH7GkTw2>

見学希望日の前日までに、お申込みください。（月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

アクセス：●地下鉄 烏丸線「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分

